

2021年第4回

定例会報告

新たな変異株の発生、3回目のワクチン接種開始

新たな変異株「オミクロン株」の感染拡大が世界各地で起きつつある中、12月1日(水)から県内でも3回目のワクチン接種が始まりました。

また、過去最大の感染規模となった第5波の検証結果を踏まえ、入院病床や宿泊療養施設をあらかじめ確保するとともに、健康上の理由等によりワクチン接種できない方へPCR検査等の無料実施を始めました。

広瀬知事は、新型コロナウイルス感染拡大第5波を総括し、「目先の危機が遠のいた今こそ、これまでの対策を検証し、得られた知見や反省点を今後に活かしていくことが大事」と説明しています。

原田、一般質問に登壇

1. 2022年度の予算編成について

- (1) 予算編成方針について
- (2) 県債について

今年度当初予算は前年度に比べ7.3%増の「積極型予算」で、前年度を上回るのは8年連続。当初予算が7千億円を超えるのは実に20年ぶりで、これは、防災・減災や人口減少など従来の課題に加え、新型コロナウイルス感染症対策と経済の再活性化に取り組むためとのことでした。

歳入面でも、政府は自治体が借金をして国が実質的に返済する臨時財政対策債の発行可能額の増額を認めるなど、2021年度の当初予算編成は財源構成がこれまでとは大きく違っていました。

そこで、2022年度予算編成の基本方針、とりわけ歳入部分の編成をどのように考えて取り組むのか質問しました。

知事答弁 通常予算で重要なのは一般財源総額の確保である。コロナ禍で大幅な減収が心配された県税収入は、今のところ堅調に確保できる見通しだが、今後の情勢の変化も注視しながら、的確に見積もっていく必要がある。

年末に示された国の地方財政対策を踏まえ、慎重に見込みを立て、編成を進めていきたい。

2. 日本一のおんせん県おおいたツーリズム戦略について

- (1) ツーリズム戦略の改定について
- (2) 感染症のリスクマネジメントについて
- (3) 「Go To トラベル」の再開に向けた情報発信の進め方について

地域振興と観光振興を一体的に進めるツーリズムを着実に進展させることを目的として策定された第3期ツーリズム戦略ですが、今年度で終了します。

現在、新型コロナウイルスの感染状況も落ち着きを見せ始めていますが、まず、この第3期の取り組みをどのように総括し、第4期となる来年度からの取り組みを進める上で、どのようにツーリズム戦略に反映をしていくのか質問しました。

また、リスクマネジメントはとても大事な視点です。危機状態に対し、機敏に対処することが観光地のブランドイメージを守ることにもつながるからです。

今回、これまでのツーリズム戦略で触れられていなかった危機状況として、「感染症」をどのように位置づけるのかを尋ねました。

知事答弁 昨年11月26日（「いい風呂の日」だそうです）に発表された「全国温泉県イメージランキング」で、本県が第1位に選定された。これからも新たな魅力の発掘、観光産業の一層の基盤強化や効果的な情報発信を推し進め、大規模観光キャンペーンの誘致など攻めの誘客を展開したい。

感染症等の危機に大きく影響を受ける観光産業のリスクマネジメントの重要性を再認識した。リスクを平常時から想定し、発生時の影響を最小限に抑え、早期回復できるよう準備する必要がある。今後、観光関係者や有識者の意見を踏まえ、より適切なリスクマネジメントのあり方を検討したい。



「安心はおいしいプラス」認証制度

大分県では、「安心はおいしいプラス」認証制度を進めています。

県内の飲食店における事業者自らが新型コロナ感染防止対策を講じるだけでなく、第三者が認証し、認証マークを交付することで感染防止対策の徹底を図るとともに利用促進を進めるプロジェクトです。別府市内だけでも400を超える店舗が認証を受けています。

行きつけのお店に認証マークが貼ってありますでしょうか？

私のHPにも議会活動・活動報告を掲載していますので御覧下さい。

<http://www.ctb.ne.jp/~harada/>

大分県議会議員 原田たかし

検索

